



「多久から発信！SDGs 16」

「食事を通して」

2月12日、多久市では中央公民館を会場に「男女共同参画特別上映会」が開催されました。この日上映されたのは「弁当の日『めんどくさい』は幸せへの近道」という、子ども自らが台所に立ち、自分の弁当を作る活動をテーマにしたドキュメンタリー作品です。弁当を作ることを通じて、本人や家族に芽生える成長や気づきを、笑いや涙を交えて描かれています。

作品の舞台である香川県で始まった「弁当の日」は、食育の視点から全国的に取り組む学校が広がりました。現在、多久市内でも「My弁当の日」と題し、子どもたち自身が弁当を作っている学校があります。弁当を作ることで、家庭の中での自分の役割に気づいたり、食に対する感謝の思いに触れたりすることが出来ます。

さて、この3月に市内3校の義務教育学校を156名の9年生が卒業します。9年生のみなさんに提供された給食は、給食センターのみなさんが栄養のバランスを考え、地産地消、安心・安全を心がけ、心を込めて作ってくださっていました。心も体も大きく成長した9年生のみなさん、日々の給食を届けてくださったことを、どうぞ心に留めておいてください。そして、卒業した後、食事を通して、学校の給食や弁当のことを思い出し、感謝の気持ちを育て、今の自分にできることを考えて、成長してほしいと願っています。持続可能な社会づくりを担う9年生を、これから多久市のみなさんが応援しています。

12 つくる責任
つかう責任



連載

野の仏ギャラリー ④6

虚空蔵菩薩坐像

多久町聖光寺

光背と坐像と蓮華座を二石で造っていますが、光背を破損しています。頭髮は双髻に結び上げ、宝冠上に光背付きの化仏を刻んでいます。額に白毫があり、胸に飾りを下げています。右手に剣を握り、左手に三弁宝珠を持っています。天衣が両腕に垂れています。虚空蔵とは虚空（大空や宇宙）のごとく無限に、知恵や慈悲を蔵した、という意味です。銘「新四国二十番虚空蔵」明治三十年



- 白毫は白い毛で光明を放ちます。
- 双髻は、髻（頭上に束ねた髪）が左右二つある状態です。
- 剣は知恵を象徴するとされます。
- 宝珠は願いをかなえる不可思議な玉です。
- 天衣はシヨール状の衣です。
- ※銘の二十一番は太龍寺で、徳島県阿南市にあります。

多久市郷土資料館長 藤井伸幸

市民文芸

◆ ありがとうその言葉が持つ輝きは
すべてのものを明るい方へ

◆ つくづくと亡母に謝り続けける
夢に目ざめぬ 大雪の朝
尾形 節子

◆ うさぎ年飛び跳ねることできぬけど
感謝と笑顔で今年も生きる
梶原恵美子

◆ 人類の戦いは尽きず傷だらけ
宇宙を廻る小さな地球
浦野 嘉恵

◆ 風はまだ冷たきままに日脚のび
去年の如く梅ふくらみぬ
川浪 信子

◆ 三寒や一間で足りる 吾の暮し
寒卵 値上げの波の近づけり
富樫 明美

◆ 潮の香の平戸の町に春来る
北上のトラツクの列雪煙
本村 則子

◆ 山裾の夕日惜しみつ 冬耕す
武富 律子

◆ わくわくと燦めく春の旅便り
村祭りに合わせて集う 里帰り
高塚チカ子

◆ 百歳を目指して集う 高齢者
食べながら痩せる話をしてる妻
中尾 和弘

◆ 美味ツアー ばつこり腹の 婦人会
田代まつこ

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《大石ひろ女選》

川柳 《多久川柳会 互選》